



お元気ですか！ 志村 たかよし です

第790号 2016年5月29日

日本共産党中央区議団

中央区 築地 1-1-1
電話 3546-5563
FAX 3546-9570

基本構想審議会
(第2回快適部会)

熊本地震を踏まえた

「安心・快適な都市環境」の整備を提唱しました

自然災害にぜい弱な都市・東京

中央区基本構想審議会「快適部会」の第2回会合が、5月23日に行われました。

私は、4月14日から現在も続いている熊本地震の状況と主な特徴について(左)紹介し、中央区のまちづくりを考える上で、熊本地震をふまえた補強・見直しが必要ではないかと問題提起しました。

東京での大地震の可能性は大

東京で大地震が発生する確率は、30年以内に7割といわれています。

熊本地震の状況 (4/14~5/22日午後4時半)

有感地震の回数…1542回
うち、震度7~震度5弱…18回
震度4…88回
死者49人、関連死疑い20人、
行方不明1人
負傷者1676人、
住宅被害9万2736棟

熊本地震の主な特徴 (東京新聞)

- ①「M6・5で震度7」
エネルギー地表抜けず
- ②「長周期階級4」
直下地震なら強く出る。
- ③「強い余震続く」
未活動の断層を刺激？

現在審議している「基本構想」は、20年先を見通してのものですが、今後20年間で、直下地震、東海・東南海・南海地震などの大地震が起きることも想定されます。

私は、区が提案している基本構想の「大項目」の一つである「災害に強く犯罪のない安心して住み続けられるまち」の内容について、熊本地震をふまえた、防災・震災対策の再検証と見直しが必要ではないかと提案しました。

自然災害を呼び込みやすい東京

東京は歴史的にも自然災害を呼び込みやすい構造を持っているぜい弱な都市構造です。

東京の開発の歴史

東京は、江戸時代に、利根川、江戸川、荒川の3河川水系で大規模な流域の変更、開削、埋め立てが行われました。東京湾の河口付近も、埋め立て、造成され、臨海開発がすすめられてきました。

中央区のほとんどが埋め立て地ということになります。

私は、東京は江戸幕府以来、現在に至るまで自然改造が進められてきたため、大災害に弱い都市構造となつているにもかかわらず、その事実とリスクについて、区の「調査報告書」には書かれていないのは問題だと指摘しました。

水没の危険

中央防災会議は、利根川が氾濫した場合、台風、高潮、河川決壊が複合すると、最悪、東京都の総面積の約4分の1にあたる530km²が浸水し、利根川、江戸川、荒

川の堤防決壊による浸水想定区域において、要避難者数は約421万人に達すると発表されています。

東京の地下空間は、地下鉄や地下街など大規模に利用されているため、荒川の決壊時には、深刻な水没被害を受ける可能性が指摘されています。

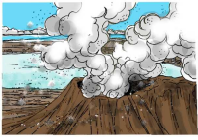
中央区の地下にも断層が…

東京の活断層を研究している日本活断層学会の豊蔵勇元副会長氏によると東京の地下には多くの断層があり、まさに、東京の「根本的危機の構造」といえるものです。中央区の地下には、南北に走っている「銀座推定断層」「築地推定断層」「勝鬨橋推定断層」「月島推定断層」があるそうです。

富士山の噴火した場合…

昨年、箱根山大涌谷は火山性微振動による立入規制がとられました。箱根山に連なる富士山の蠢動も指摘され、富士火山帯が活動期に入っているといわれています。

富士山や箱根山が噴火したら、東京に甚大



な被害を与えます。

1707年の宝永大噴火の時は、東京・神奈川県に、火山灰や軽石が平均で約20cm降下しているのでもし、富士山が噴火したとき、東京に降り積もった膨大な量の火山灰や軽石などの除去とその集積場所をどこに確保するのが大きな問題となると専門家は指摘しています。

軟弱地盤と地震の巢の上に立つ

世界最大の都市・東京

都も区も東京を「世界一ビジネスをしやすい都市」にしようとしています。東京は、地震の巢の上、それも関東ローム層という厚い軟弱地盤の上に立つ世界最大の都会です。

「世界一の都市」東京どころか、ビジネスをする都市としても大きなリスクがあることを直視しなければなりません。

どこで地震があってもおかしくない火山列島の国、日本の首都に経済の中心と政治の中心を置いて、両方同時に機能停止するリスクを取ることは愚策としかいえません。

区民が安心・快適に生活できる 都市環境の整備を

中央区は「世界一の都市」東京を牽引することをめざしています。

しかし、まちづくりは、区民が安心、快適に生活できる都市環境の整備にこそ力をそそぐべきで、後藤新平たちが企画したような、大きなグリーンベルトや大型広場、日常生活を潤す都市公園の拡張など、災害時の被害を減らすための都市計画に転換することが必要だと考えます。

「区民意識調査」の「重点を置くべきまちづくり」の結果は、1位が「安心で快適に暮らせるまち」（45・2%）、2位は「健康でいきいきと過ごせるまち」、3位は「災害・犯罪に強いまち」となっています。世界をリードする都市づくりが展開される「最先端のビジネスのまち」は6・4%、14位で下から2番目です。

「区民が主人公」のまちづくりという地方自治体の精神で、この結果を踏まえれば、「最先端のビジネスのまちづくり」より、住民の期待・要望にこたえるまちづく

りに総合力をそそがなければならぬことは明瞭です。

私は、区が提案している「魅力ある都市機能と地域の文化を世界に発信するまち」を「安心、快適、魅力ある都市環境と地域の文化を世界に発信するまち」に変更することを提案しました。

市川氏「私とは意見が違う」

部会の座長を務めている「東京一極集中」論者の市川宏雄氏は、私の意見に対して「中央区を否定するのですか」「後藤新平のような防災のまちを作ればいいのですか」など感情的な反論をしたあげく、「私とは意見が違う」「議会で議論を」と私との議論を打ち切りました。

6月27日に開かれる次回の部会でも、事実と科学的なデータにもとづいて、審議にのぞみたいと思っています。

